

テーマを突き詰めると 原理原則が見えてくる!!

「International security create(国際的な安全を創造する)」という言葉が略してネーミングした社名INTERSEC(インターセック)には、水沼孝夫氏の、熱い願いが込められている。日本の治安は万全、という神話が絶えつつある今日、警備会社として、暮らしの安心・安全を守る一方で、次世代に向けての健康・環境問題にも使命感をもって積極的に取り組んでいる。「ライフワークとして取り組みたい。いい仕事をしているという実感がある」と。まさに天職に巡り合ったわけだ。

しかし、その出会いは、全くの偶然。大学卒業間近に、弟の就職活動に付き添って行った警備会社で勧誘され、内定していた商社を蹴つての入社。8年間、その警備会社で営業、管理の仕事をこなす。もちろん、最初は護身術などを身に付けありとあらゆる警備の現場も

天職との出会い



「立てたい」と意欲的だ。

好奇・心旺盛

硬軟取り混ぜた豊富な話題に、ついつい引き込まれる。「人と同じは面白くない。斜め45度からの視線がいい」。見方を変えることで、いろいろなものが見えてくるそう。まずは人の話を聞く、次に興味・関心のあるものをテーマに設定、それを突き詰め、そしてきちんと主張する。体感しないものは、決して知ったかぶりをしていない。

その幅広く奥深い人間性のルーツを探ると、意外にも偶然の連続。近所にある道場があるからと始めた剣道。人手が足りないのと借り出された陸上競技。先輩のドラム姿に憧れ、入部した吹奏楽部。勧誘されてふらっと入った写真クラブ、等々。もちろん、就職も然り。「好奇心旺盛で何にでも興味津々。まあ、ちゃらんぼらんなんですよ」と笑いながらそぶく。その割には、剣道も陸上も成

経験した。そのノウハウと熱い心で独立したのは、21年前。「信用される会社を目指し、目に見えないところに気配りし、とにかく安心・安全に努める」と。そのテーマを、とことん追求し、何をすべきか常に学び考えた結果、健康や環境、少子化、エネルギー問題にたどり着き、環境事業にも取り組むようになった。

水素水「い〜水H2」もそのひとつ。「水の力は大きい。人体の70%は水。その力を究明し、健康に役

績を残し、音楽もフォークからハードロックにまでめり込み、写真にいたっては世間が注目する学外展にも出品。そこに中途半端な姿は、微塵も感じられない。仕事に関しては、言うに及ばず。

それでいて、気負いが無い。その時々をめいっぱい楽しんでいるかのように見える。「一つ知ると喜びがあり、またその先に新しい、知る、があつて…」と。これが、水沼流の人生を楽しむコツなのかもしれない。

テーマの追求

テーマを設けて追求する姿勢は、大衆時代の写真を撮る中で身に付いたものらしい。「日常の見慣れた風景も、ファインダー越しに違った角度から切り取ると、新たな魅力にあふれている」そう。まさに、斜め45度の見方である。

現在追求しているテーマの中で、最も力を入れているのが、安心・安全・健康、そして環境問題。特に3・11の震災を機に、「子どもの世代のために、間違えた選択はしたくない。自分たちのことに無関心ではいられない」と、熱く語ってくれた。

【取材日：平成25年12月12日】



Profile
水沼 孝夫
みずぬま たかお

昭和36年8月17日生まれ、52歳。芳賀町の兼業農家に生まれ、兄弟2人の長男として育つ。栃木県立真岡高等学校普通科を経て、大東文化大学経済学部経済学科卒。北関東総合警備保障株式会社で8年間勤務し、その経験を生かして平成4年6月に(有)インターセックを設立。15年株式会社組織変更。宇都宮本社のほかに県内4カ所、茨城県1カ所に営業所を持ち、セキュリティ事業部と併せて水素水「い〜水H2」の総代理店など環境事業にも力を入れている。また、芳賀町議会議員など要職も歴任。一男二女の父。